

発行所 環境農業新聞社
編集発行人 成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041 フランス堂ビル3階
電話 03-3826-5212
FAX 03-3826-5217
年間購読料 3,000円(税・送料込)
郵便振替口座 00150-2-290578

環境農業新聞

メール:ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

主な記事

- …シンポジウム15回目……(1面)
○…御池のロボセンエース……(2面)
○…船津氏の岡目八目論……(3面)
○…アステカスーパーライト好評……(4面)



第15回日本の農業と食を考えるシンポジウム。中身の濃いシンポジウム大盛会

過去最大の4千人が ライブ視聴で大盛会

「今、食が危ない！自然農の復興」は、今、食が危ない！自然農の復興…は、今、食が危ない！自然農の復興…は、今、食が危ない！自然農の復興…

賢くなければならない

日本は今存亡の危機にある

第15回日本の農業と食を
考えるシンポジウム

今、食が危ない！
自然農の復興

「今、食が危ない！自然農の復興」は、今、食が危ない！自然農の復興…は、今、食が危ない！自然農の復興…は、今、食が危ない！自然農の復興…

「供給面」で世界的に起きていることは、略け食物であり、より自然な栄養にあふれ、安心安全な食糧を国民が選択するため、不自然な科学食品を推進する企業の商品などの不買運動などの推進や、OKシードプロジェクトなど消費者側の食品表示運動などの展開の重要性を述べた。また、日本が最大の輸入国である遺伝子組み換え農産物であるが、アルゼンチン(健康被害)、インド(農家の自殺)、カナダ(農家がモンサントに知的財産権を訴えられた件)など、農家や周辺住民を襲った事例の動画も紹介された。最後に、日本は今存亡の危機にあるが、それは、多くの日本人が自分の頭で考えることをやめてしまっただけであるとして、この世は弱肉強食の世界であるという真理に気づき、生き残るために、賢くなければならないと結んだ。

2番手では八ヶ岳山麓の北杜市へ東京から移住し新規就農したファーマーホメオパスの井手麻子さんの事例発表「家庭菜園で、誰もが農医・食医になり、引き継ぎ、日本豊受自然農・食品加工工場の横田美沙氏は「豊受式」保存食で作物をまるごと生かす食料危機に備えよう」、大豆担当の小林且幸氏は「グリホサート漬け、遺伝子組み換えにNO！日本も麦、大豆を自然農で自給しよう」、稲作担当の川原拓朗氏は「稲作を守っていくことの大切さ。自然農のお米を食べよう」、洞爺担当の米丸輝久氏は「豊受ステラミニトマトの栽培」とそれぞれの実践と想いを発表した。引き続き来賓発表の部に、中医師のなかやとし美氏が「酵解健康飲料「奄美のミキ」が日本人のお腹を救う」をテーマに、信州大学元特任教授の小谷宗司氏が「医食同源」野と山は薬と食の宝庫 かつての食を食べよう、そして、環境農業新聞に「岡目八目」記事連載中の頃の会長の船津準二氏が「食は国民の生命に直結する憲法事項です。食料安全保障、農業基本法、そして、戦後日本の買収物革命、自らが自

却へ」をテーマに発表を行った。ワクチン健康被害でミラクル 由井真子博士の対策を多くの方に知ってもらいたい。最終セッションはパネルディスカッション。冒頭では、工藤聖子JPHMA認定ホメオパスが、ワクチン3回目接種後にALS様症状となった男性の症状が、由井真子氏が開発した免疫対策のサポートと健康相談を併用して、ミラクルに回復したケースを発表、世界で新型コロナワクチンの大きな被害が表面化する中、由井真子ホメオパス博士のワクチン被害やシエディングへの有効な対策を早く多くの人に知って実践してもらいたい。

また、助産師でホメオパスの西田つや子氏は、赤ちゃんは賢い、本能的に、安心して栄養あるかどうかかわかっており、ジャンクフードを食べるお母さんの母乳は嫌がると、妊婦さんは、自然農の食品など安心して栄養ある食に心がける重要性について発言した。由井大会長は、「もう手をこまねいている段階ではありません。皆さんファイト！一人ひとりが主役です。よく深く賢く考えて、勇気を持って行動を起こすことから始めよう。家庭菜園からの自然な農業、不買運動からの買収できるイネの品種を開発できる」と解決策を提案した。

分の頭で考え、発信することが世界を変えていくことにつながっています。そして日本の農業と食を良くしていきます。大会を締めくくった。(詳細レポートは大会ホームページに掲載されています)「遺伝子操作は原子力以上に私たちの未来に大きな影響を与えるでしょう。私たちは、何をすべきか真剣に考えなければなりません。」分子生物学者の河田昌東氏は、極めて重たいし、重要な内容を「放射線照射、ゲノム編集による品種改良、何が問題か」というテーマで講演。こちらも百聞は一見に如かず、公開されているアーカイブ動画を視聴をお奨めする。今年に入り、OKシードプロジェクト事務局長の印論智哉氏が4月に自身のブログで各都道府県の主力なコメの栽培品種まで放射線照射の品種に切り替えていくとする全国的な動きが明らかになった。この春からツイッタで農場からのつづやを始めたばかりの由井大会長が印論さんのブログを読んで、こまづくり農家の立場から政府の花粉症対策の遺伝子組み換え米の推進の問題とともな、放射線照射米の問題をつづやのいた動画を公開したところ、様々な形で200万人を超える方々に拡散され本人もびっくりの大きな反響となった。この問題についての専門家の意見も聞きたいとの要望も多く、分子生物学者の河田昌東(かわたまさる)氏を招聘し急遽6月3日のシンポジウムで、詳しくこの問題について講演いただくことになったという。専門的な話になるので、ぜひ本人が直接説明されているアーカイブ動画を視聴してみられることをお奨めする。河田氏は、1960年代から、三重県藤原町のセメント工場が排出したカドミウムによる田畑汚染公害訴訟等の支援、田畑のカドミウム汚染の解決の問題にも古くから関わってきた。また、チェルノブイリ原発事故被害者の救済活動を1990年から行っており、著書に「チェルノブイリと福島」もある。また国内に輸入された遺伝子組み換えのナタネが日本国内で自生しアラナ科の様々な国内植物と交雑し日本在来の植物の遺伝子の汚染が進んでいる問題について、遺伝子組み換えナタネ自生調査活動を2005年から生活クラブなど消費者と共同で続けており、今年も7月22日にオンライン報告会が予定されている。